

22 石臼を碾きながら

このうたは、おんちゃんらのちい小さかつたころ、中村なかむら
 (北中町きたなかまち) のおばあさんらの手伝てつだいをして、石臼いしすで黍きびや豆まめ
 蕎麦そばを碾ひく時に、聞きかされたうたの一部いちぶや。毎日毎日まいにちまいにち聞きか

されたんで、七十しちじゅうをすぎても、ぜんぶおぼえているんや。

このうたに合わせて「石臼いしすをまわすと、ちようどいいあんばいの粉こなができるんや。」

- 信心喜ぶしんじんきよるその人は、口ひとには唱名くちら、手てには数珠じゅず、仏ほとけや菩薩ぼさつに護まもられて、淨土じょうどに生まれる道みちすが
 ら、それゆえ行儀ぎょうぎに気きをつけて、なるべく悪事あくじを慎つつめよ。
- 迷まよいの老婆しやばに居ゐる内うちは、欲よくも起おこれば腹はらも立たつ、強欲こうよく、我欲がよくの風吹かぜふかば、信心歡喜しんじんかんぎの戸とを立てよ。
- 迎むかえし嫁よめを憎にくむなぞ、嫁よめも他人たにんの可愛かわいい子こぞ、我わが子こも何いずれ縁えん付つけかば、必ずかなら他人たにんの嫁よめとなる。
- 兄あにや弟おとう、姉妹おうめも前後まへうしろに生まれて別べつなれど、その根ねは同じ父おやぢと母はは。
- 婆婆しゃばは即すなはち堪忍かんにんぞ、成なる堪忍かんにんは誰だれもする、成ならぬ堪忍かんにんするのこそ、念佛行者ねんぶつぎょうしゃの務めなり。

このうた、もっともつと続くけど、今日はこのへんにしどうの。

